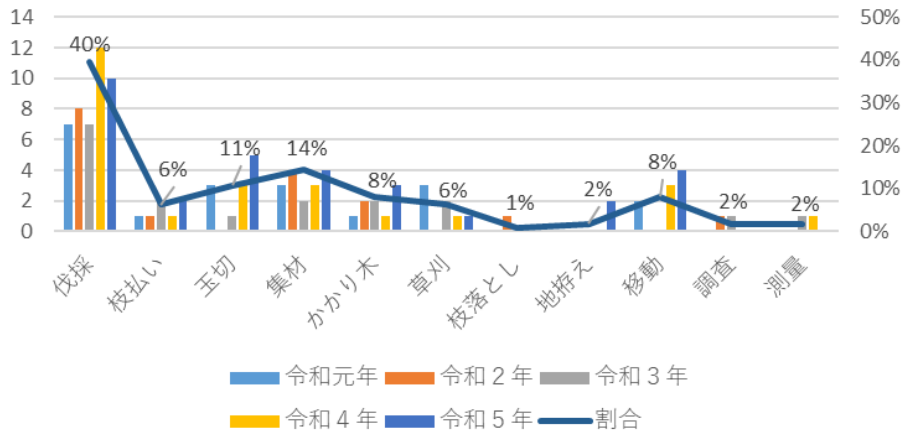


# 林業における労働災害発生状況①

作業種別



<作業種別>

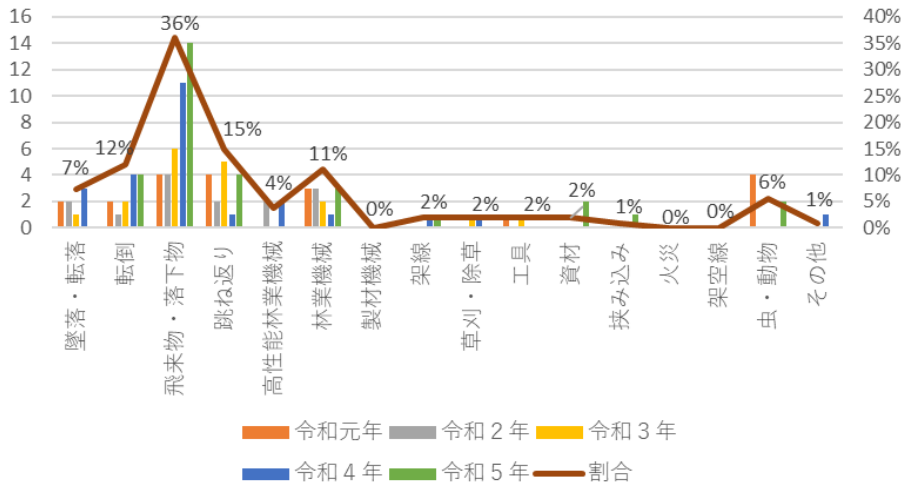
伐採時が突出して多く4割を占める。

<原因別>

伐倒木（かかり木含む）や枝・材等の飛来物や落下物が全体の4割を占める。

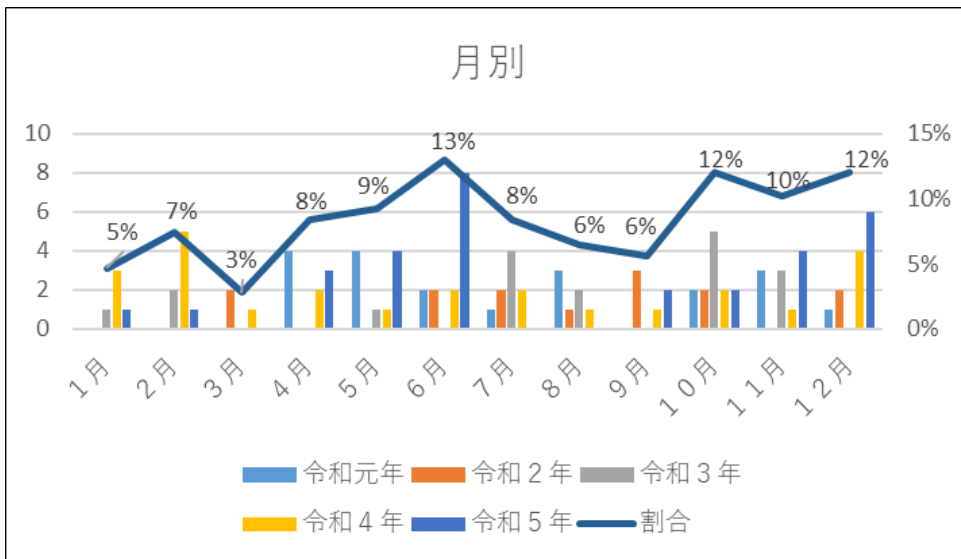
次いで墜落・転落、転倒による原因が2割を占めており、作業時や移動時において足元の注意（特に降雨時、降雨後）が必要。

原因別



思わぬ方向に倒れる、跳ね返る、枝・材が飛んでくるという「想定外」による労働災害が大半を占めている。事前の「危険予知」や伐倒時の「退避の徹底」が肝要。

# 林業における労働災害発生状況②

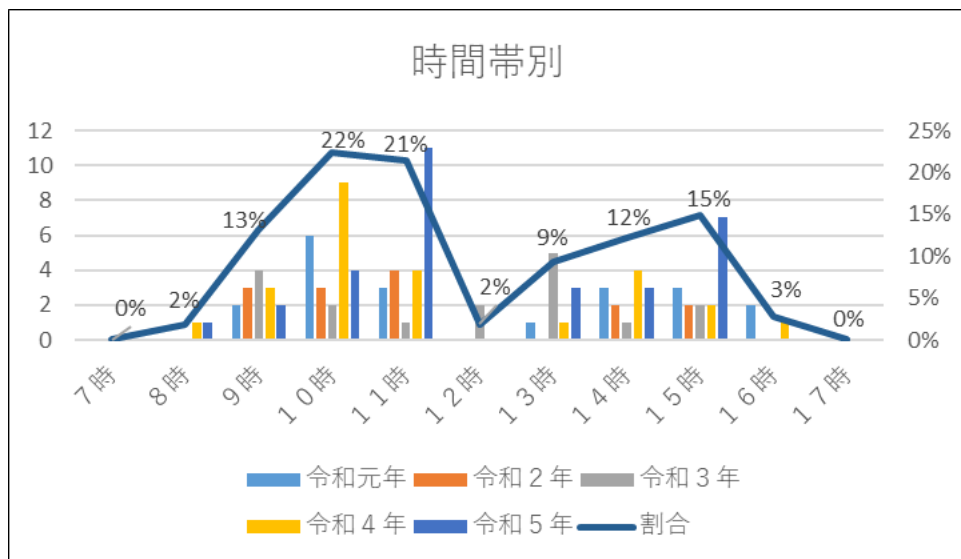


<月別>

月別では顕著な傾向は見られない。

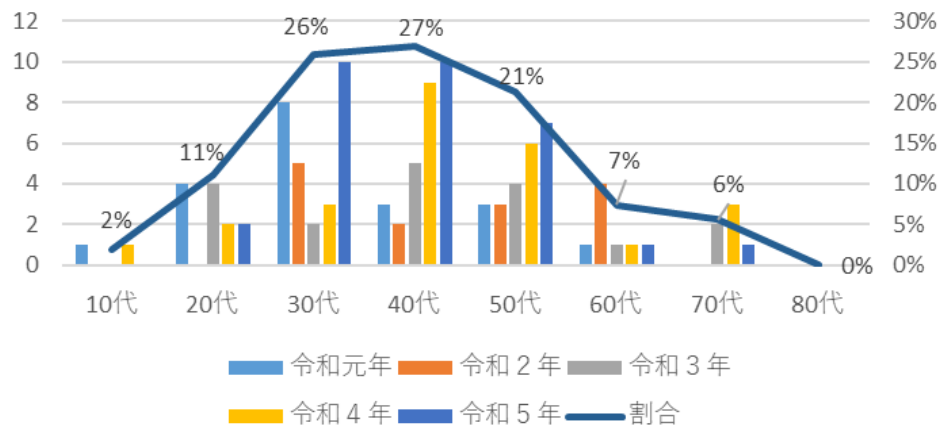
<時間帯別>

10時や14時前後に労働災害が多く発生しており、朝及び昼の作業開始から一定時間が経過（集中力が切れやすい）した頃に多い。



# 林業における労働災害発生状況③

## 年代別



<年代別>

30代～50代で約7割を占めている。

<経験年代別>

10年未満で約6割を占めており、経験を重ねるにつれて減少の傾向がみられる。

## 経験年代別

